

平成13年度半島地域活性化優良事例表彰受賞団体及び事例の概要

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	財団法人山口県大島郡国際文化協会
国土交通大臣賞 国土交通大臣 扇 千景	山口県	室津大島 (大島郡4町)	事例名	ハワイとの国際交流による「アロハ」のまちづくり
<p>[概要]</p> <p>大島郡4町(久賀町、大島町、東和町、橘町)は、本州と橋でつながる周防大島にあり、全国の中でも特に高齢化が進んでいる地域である。一方、この大島郡4町では、明治18年~27年のハワイ官約移民(約4千人)の歴史を踏まえて、昭和38年からハワイ・カウアイ島との姉妹島交流が盛んに行われてきており、これを継続・発展させるとともに、高齢化の進む地域の活性化を図るため、4町が広域連携し、平成2年にハワイとの国際交流の推進母体として「財団法人山口県大島郡国際文化協会」を設立した。</p> <p>本協会では、ホームステイを通じた若者交流を実施するとともに、「島づくりフェスティバル」でのフラダンスショーなどを通じた高齢者の健康づくりや文化交流、役場、郵便局、農協、銀行などの職員がアロハシャツを着用する「アロハキャンペーン」において中心的な役割を担い、広域連携により行政と住民が一体となって国際交流によるまちづくりを推進している。</p>				

賞名(表彰者)	道府県名	地域名	団体名	八竜町砂像連盟
半島地域振興対策協議会長賞 (会長) 和歌山県知事 木村 良樹	秋田県	男鹿(八竜町)	事例名	砂像の普及を通じたまちづくり
<p>[概要]</p> <p>八竜町は、北は世界遺産の白神山地、南は男鹿半島全域を望む絶好の景観を有しており、町では、「日本の水浴場88選」にも選定された釜谷浜海水浴場において、平成9年より「サンドクラフトin八竜」を開催している。</p> <p>「八竜町砂像連盟」は、「サンドクラフトin八竜」開催のための研修に参加したボランティアスタッフが、イベント開催時だけでなく通年の砂像普及活動と各方面からの砂像製作体験の依頼に対応するため、平成11年に、会社員や自営業の人達が自主的に結成した団体である。</p> <p>本連盟では、海岸地域の共通資源である「砂」を活用したイベントの開催に当たり、砂像製作・展示の企画・立案から運営まで、行政と一体となって活動するとともに、イベント参加者や小中学生への技術指導、他地域との交流等を自発的に行うことにより、ゴミのない綺麗な砂浜の創生や町内外での砂像の普及・町のPRを図っている。</p>				

賞名（表彰者）	道府県名	地域名	団体名	赤毛コミュニティセンター
半島地域振興対策議会議長連絡協議会長賞 （会長） 石川県議会議長 善田 晋作	富山県	能登(氷見市)	事例名	廃校利用と文化交流を通じた地域づくり

[概要]

氷見市は、能登半島の基部にあり、豊かな海洋資源に恵まれ、氷見の魚をブランド化するなど水産業が基幹産業となっているが、市の3分の2は中山間地域である。

「赤毛コミュニティセンター」は、中山間地域である赤毛集落にあった小学校の廃校を契機に、自治会、老人会、婦人会及び壮年会の4団体が、過疎化の進む地域の将来を考えるため、平成10年に結成した地域づくり団体である。

本センターでは、廃校を利用した工房舎「閑雲」(かんうん)を設置し、陶芸体験や木工、楽器、ガラス製作のための工房提供、文化交流等を実施することにより、地域住民の郷土に対する愛着や誇りの高揚、自主的・主体的な地域の活性化を図っている。また、「自分達でできることは自分達で」を基本姿勢としており、旧校舎の前庭に、技術伝承を目的として、かやぶきの多目的野外ステージを自主制作し、春と秋にお茶会を開催するなど、集落単位での芸術文化の発信を行っている。

賞名（表彰者）	道府県名	地域名	団体名	厚沢部町観光協会
全国半島振興市町村協議会長賞 （会長） 北海道知内町長 脇本 哲也	北海道	渡島(厚沢部町)	事例名	いきいきあっさぶサマーフェスティバル

[概要]

厚沢部町は、北海道南部の渡島半島の日本海寄りに位置しており、その8割が森林で覆われた自然豊かな町である。

冬の雪合戦に参加した一青年の「こんな寒い所でなく、夏の青空の下で出来たら子供もお年寄りも楽しめるだろうな」との発言をきっかけに、「厚沢部町観光協会」が中心となり、交流人口や観光入込客の拡大を図るため、平成10年より「真夏の雪まつり」「雪合戦」を開催している。本協会では、平成13年にはこれに加え、町の風物詩である「クワガタ」や「鮎」を活かした観察会や釣り大会などを合わせて「いきいきあっさぶサマーフェスティバル」として開催し、子供から大人までが楽しみ、町外からも多くの参加者が集まる町の一大イベントに成長させている。本イベントの下準備として、冬季におよそ600トンの雪を地中に埋め、真夏まで保存し、これを真夏の雪合戦の玉などに利用しており、これは、利雪という雪国の課題に対応した取組ともなっている。